

鳥取西道路の遺跡を掘る!

第 36 号 2012 年 4 月 20 日

土器の中には、灰色をした、指で弾くと金属のような音のする硬い土器があります。これは須恵器と呼ばれる土器です。この特徴的な土器はいったいどうやってつくられたのでしょうか?



須恵器とは?

須恵器は5世紀前半に朝鮮半島からもたらされたもので、ロクロや登り窯を用いた新しい技術でつくられた焼き物です。須恵器は、それまでの窯を用いない野焼きで焼いた土器と比べてより高温で焼かれるため硬質となります。また土器の色は、野焼きだと粘土内の鉄分と酸素が結びついて赤っぽい色となりますが、登り窯では窯内が密封されて酸素不足となり、灰色となります。

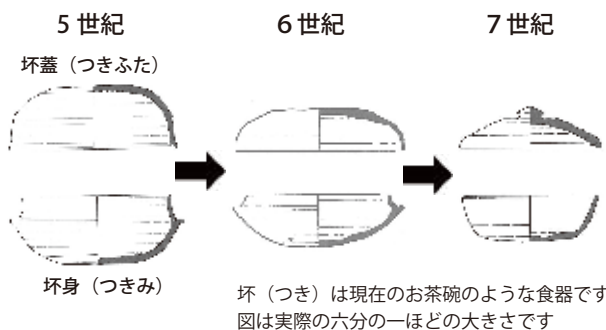


写真提供: 鳥取県埋蔵文化財センター

いろいろな形の須恵器
(主に食器や貯蔵容器として使われています)



野焼きでは 800 度くらいの温度ですが、登り窯は 1000 度をこえます



その形は時代と共に変化しており、20～30 年単位で年代を知ることができます。遺跡の年代を判断するのに大変重要な遺物です。

須恵器は 10 世紀くらいになると生産されなくなりますが、その後もロクロや窯を使った土器(陶器)として発展し、今日の瀬戸焼や備前焼といった焼き物に受け継がれています。

(財) 鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所

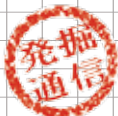
〒680-1133
鳥取市源太 12 番地
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)

TEL : 0857-51-7553

FAX : 0857-51-7550

メールアドレス :

kyobun@bz04.plala.or.jp



今年も発掘調査の準備が始まりました。今年はどうな成果をお伝えできるのでしょうか。

発掘通信やホームページでもお知らせしていきますが、今年度の調査地はそれぞれとても近い場所にあり、遺跡をまわりやすくなっています。

ぜひ現場にもお越しください!

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

湖山池南岸に埋もれた歴史をさぐる

～平成 24 年度の発掘調査～

平成 24 年度は、昨年度に引き続き高住地区で 3 遺跡、良田地区で 2 遺跡の発掘調査を予定しているほか、新しく桂見地区で 1 遺跡の発掘調査を行う予定です。いずれも湖山池の南岸に面した谷の中に位置しています。

昨年度の調査では、縄文時代の編みカゴや古代の木簡・墨書土器といった文字資料など数多くの発見があり、この地域の昔の様子が少しずつ明らかになってきました。今年度も新たな発見によって、この地域の歴史がより明らかになると期待しています。今後の発掘情報をどうぞお楽しみに。

高住平田遺跡

高住地区の谷を流れる三山みやま口川の西岸にある遺跡です。これまでの調査では奈良時代～鎌倉時代の溝や水田が見つかっています。

今年度は縄文時代の調査を予定しています。

高住井手添遺跡

高住井手添遺跡は三山みやま口川の東岸に位置します。昨年度の調査では、縄文時代の編みカゴをはじめ、数多くの遺物が出土しました。



編みカゴ

高住牛輪谷遺跡

高住牛輪谷遺跡も三山みやま口川の東岸に位置します。昨年度の調査では、弥生時代～古墳時代のムラの跡や古代・中世の水田跡が見つかっています。



* CG 画像は、国土地理院が公開している航空写真と基盤地図情報（標高データ）を合成したもので、高さは 2 倍に強調しています。

良田中道遺跡

良田平田遺跡の西側の谷にある遺跡です。昨年度の調査で昔の「道」らしき遺構を確認しており、古代の交通について明らかになることが期待されます。

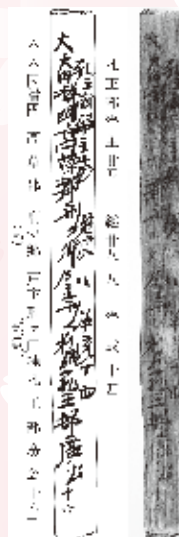


良田地区を南西上空からみた写真

良田平田遺跡

昨年度の調査では、平安時代の建物跡や木簡、墨書土器など古代の役所に関する遺物が数多く見つかりました。

中でも当時の地名や人名が書かれた歴名木簡は、貴重な発見となりました。



歴名木簡

東桂見遺跡

桂見地区では、これまでの発掘調査で縄文時代から古墳時代を中心とした遺構や遺物が数多く見つかりました。中でも縄文時代の丸木舟と櫓かいは県指定の保護文化財となっています。今回の調査でもこれに匹敵するような発見があるかもしれません。